

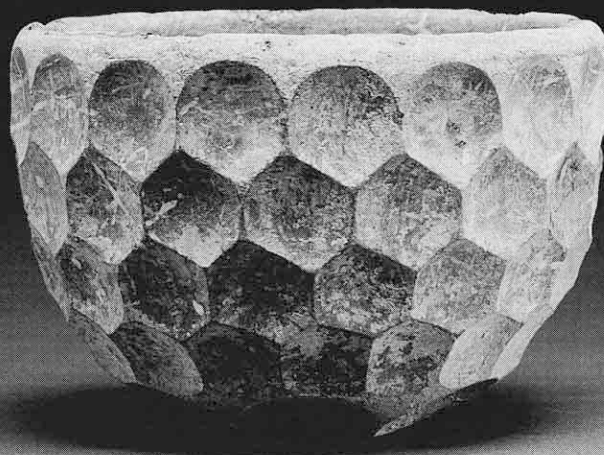
# まつどミュージアム

MATSUDO MUSEUM

No.  
13

2004年(H16)12月

コレクション紹介



●今号の表紙

きり こ わん  
切子碗

【 Cut Glass 】

このガラスの器は、今から千年以上前、現在のイランを中心に栄えていたササン朝ペルシャ(3~7世紀)という国で作られました。正倉院に納められている「白瑠璃の碗」は、類品が遠くシルクロードを通過して日本に伝えられたものです。この資料は来年、当館で開催されるペルシャと日本の交流をテーマにした企画展で展示されます。

# 東北の伝統こけし



【土湯】



【遠刈田】



【弥治郎】



【鳴子】



【肘折】



【蔵王】



【山形】



【作並】



【木地山】



【津軽】



【南部】

館蔵資料展「東北の伝統こけし」が、

3/20(日)から開催されます。

東北地方の伝統工芸「こけし」。

表情も紋様も1つ1つ違うこけしの、  
素朴で愛らしい魅力をじっくりご鑑賞ください。



平成17年 3月20日 日 ~ 5月15日 日

場所 / 市立博物館・企画展示室

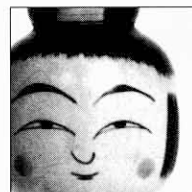
今回館蔵資料の中からご紹介するのは、東北地方で製作されている「伝統こけし」です。こけしと「伝統」こけしとは、どのように違うのでしょうか。こけしは工芸品の一種ですから、必ず「作者」が存在します。工芸作家の自由な独創のもとに製作されているこけしもあって、これは伝統こけしとは区別して「新型こけし」「創作こけし」と呼んだりします。

伝統こけしにも作者が存在しますが、一人というわけではなくて、複数の作者が一定の作風のもとに製作しています。伝統こけしでは「作者」「作家」ではなくて「工人」といういい方をすることが多いのですが、これは自分のことを芸術家というよりも職人と考えているためかも知れません。

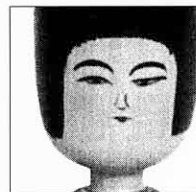
こけしの作風は、世代間に受け継がれることによってひとつのグループを形成します。顔立ちや色づかい、紋様などの特徴から「～系」と呼ばれるようになりました。こうした名称は工人自ら名乗ったというよりは、これを買い求め、コレクションの対象にしようとした

人々による命名と考えた方がよいでしょう。

東北伝統こけしには、<sup>つちゆ</sup>土湯、<sup>とおがた</sup>遠刈田、<sup>やじろう</sup>弥治郎、<sup>なるこ</sup>鳴子、<sup>ひじおり</sup>肘折、<sup>ざおう</sup>蔵王、<sup>やまがた</sup>山形、<sup>さくなみ</sup>作並、<sup>きじやま</sup>木地山、<sup>つがる</sup>津軽、<sup>なんぶ</sup>南部という11系統の名称がつけられています。



今回展示する東北伝統こけしのコレクションは、市内在住の深谷定康氏ご夫妻が昭和50(1975)年前後に集めたものです。ご夫妻は当時、仕事の都合で仙台に居を構えていました。初めて住む町でこけしに出会ってからその魅力にとりつかれ、やがて暇を見つけては工人たちのもとを訪れるようになりました。実際の製作現場を見学したり、工人たちとうちとけてことばを交わす中で、こけしを見ただけではわからない工人たちの苦労や誇りとといったものも一緒に収集していったわけです。素朴な愛らしさをもつこけしたち。見比べてあなたの好きな一点を探し出してみてください。



(当館学芸員 山田尚彦)

## 「難しい質問」

松戸市立博物館学芸員 小高 昭一

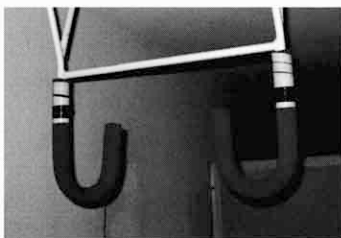
博物館には1週間で1、2本は電話での質問が来る。簡単に答えられる場合もあるが、電話での回答が困難な質問もある。例えば江戸幕府の牧場「小金牧」ができたのはいつか？。通説では江戸初期の慶長年間(1596～1615)に成立したといわれていると答えるが、なぜそのように曖昧な答えなのかと反問される場合もある。そうなるとう電話ではまずまず説明が難しい。慶長年間成立説の典拠資料は、寛政年間(1789～1801)以降に小金牧の牧士や野馬奉行といった役人が幕府に提出するために作成した「由緒書」など、自己申告のもの。200年も前のことを書いた資料

で、これを裏付ける慶長年間の資料がない限り、絶対的な信用を置くことはできない。歴史事実には、その成立時期が明確なものは意外に少ないのである。しかし、一般には明確に判明しているものだと思われがちで、この手の電話での問い合わせに対する回答に苦慮する。同様に成立時期の確定が難しい問題では、水戸道中(水戸街道)や金町松戸関所はいつできたのか、江戸川の開削の時期などがあげられる。いずれも江戸初期から江戸前期の事項で、時代が古くなるほど資料が少ない、残っていないため、明確にできないのである。資料・古文書が残っていれば、解明できることがある。したがって、歴史研究者は、資料を探すことで研究を進めるだけでなく、現在まで残されてきた資料を整理・保存し、後世に伝えることも重要な責務なのである。

## アンケートボックスの中の声

常盤平団地の展示を見ている時、ベランダの物干しで頭をぶつけてしまいました。危ないので「頭上注意」の表示があれば……。(30代 男性)

博物館より：大変申し訳ありませんでした。お詫びいたします。その後、館で検討した結果、団地の生活を再現・展示した部分での「頭上注意」の表示は少し違和感がありそうですので、写真のようにフックにスポンジを巻き付ける改善をいたしました。ご指摘ありがとうございました。



2階の展示室を無料にしてほしい。(小学生)

博物館より：毎週土曜日は小・中学生の観覧料(常設展・企画展とも)は無料になっています。土曜日のご来館をお待ちしております。

一緒に見ながら解説して下さる方がいるといいかなと感じました。(30代 女性)

博物館より：ガイドツアーをご利用ください。毎日午前10:00と午後2:00の2回、総合展示「人類の登場」から「都市へのあゆみ」までを2名の解説員がリレー方式でご案内しています。「団体でガイドツアーを利用したいけれど、ガイドツアーの時間に間に合わない」といった場合も、お気軽に博物館にご相談ください。



貴重なご意見ありがとうございました。これからもご意見・ご感想をたくさんお寄せください!

# 行事案内

## 展示

**ジャパニーズ・モダン—剣持勇とその世界—**  
 1/22(土)～2/20(日)  
 観覧料／一般420円(330円) 高・大学生210円(120円) 小・中学生120円(60円) ( )内は団体  
 この展示に関するお問い合わせ／  
 松戸市教育委員会 美術館準備室  
 〒271-8588 松戸市根本356 (Tel.047-366-7463)

**館蔵資料展「東北の伝統こけし」**  
 3/20(日)～5/15(日)  
**観覧無料** 詳細は2頁をご覧ください。

## 講座・講演会

**展示でみる・歩いてみる松戸の歴史⑦**  
**「近代松戸の交通」★友の会との共催**  
 1/15(土) 13:00～15:00  
 講師と市内の遺跡や常設展示を見学し、  
 解説・講演を聴くシリーズ第7回目です。  
 講師／柏木一朗(当館学芸員)  
 定員／80名(当日先着)  
 費用／一般の方は参加費200円が必要です。  
 (友の会会員は無料)

**体験教室「自分でつくる糸と布」**  
 1/18(火)と1/19・20・21のいずれか1日  
 10:00～15:00(全2回)  
 綿を紡いで糸を作り、その糸で布を織ります。  
 講師／青木俊也(当館学芸員)  
 定員／各日4名(事前申込み・抽選)  
 費用／無料 〆切／1月5日(水)必着

**古文書を読む「近世入門編」**  
 1/22～3/19の隔週土曜日(全5回)  
 10:30～12:00  
 初心者を対象に、松戸に関わる近世文書  
 を解説し、その歴史的背景を解説します。  
 講師／小高昭一(当館学芸員)  
 定員／30名(事前申込み・抽選)  
 費用／無料 〆切／1月6日(木)必着

**考古学特講「考古学で語る古代東国史」**  
 2/6～3/6の隔週日曜日(全3回)  
 10:00～11:30  
 最新の考古学研究成果から見た、  
 古墳時代の東国について講義します。  
 講師／松尾昌彦(当館学芸員)  
 定員／80名(事前申込み・抽選)  
 費用／無料 〆切／1月20日(木)必着

**特別講演会Ⅱ「石枕と立花のマツリ」**  
 2/13(日) 13:30～15:00  
 千葉県の特徴ある古墳祭祀について学びます。  
 講師／白井久美子氏(千葉県文化財センター)  
 定員／80名(事前申込み・抽選)  
 費用／無料 〆切／1月27日(木)必着

**展示でみる・歩いてみる松戸の歴史⑧**  
**「公団住宅2DKの暮らし」**  
 2/19(土)13:00～15:00★友の会との共催  
 講師と市内の遺跡や常設展示を見学し、  
 解説・講演を聴くシリーズ第8回目です。  
 講師／青木俊也(当館学芸員)  
 定員／80名(当日先着)  
 費用／一般の方は参加費200円が必要です。  
 (友の会会員は無料)

**展示でみる・歩いてみる松戸の歴史⑨**  
**「湧水と子と清水伝説」**  
 3/19(土) 13:00～16:00 ★友の会との共催  
 講師と市内の遺跡や常設展示を見学し、  
 解説・講演を聴くシリーズ第9回目です。  
 講師／山田尚彦(当館学芸員)  
 定員／40名(事前申込み・抽選)  
 費用／一般の方は参加費200円が必要です。  
 (友の会会員は無料) 〆切／3月5日(土)必着

**中世の資料を読む**  
 3/30～6/8の隔週水曜日(全6回) 18:00～20:00  
 中世の文書・記録の読解と解説をする講座  
 です。歴史資料から直に歴史を学びます。  
 講師／中山文人(戸定歴史館学芸員)  
 定員／30名(事前申込み・抽選)  
 費用／無料 〆切／3月17日(木)必着  
 会場／JR松戸駅周辺を予定しております。

〈申込方法〉事前申込みが必要な講座・講演会は、  
 往復ハガキに住所・氏名・電話番号、友の会会員  
 の方は会員番号を明記し、松戸市立博物館各係  
 (講座・講演会名を必ずご記入ください)までご応募  
 ください。お一人様1枚ずつようお願い致します。

## ハイビジョン 入場無料

1月／イギリス田園生活への誘い  
 ～新たな人生への旅立ち～  
 2月／イギリス田園生活への誘い  
 ～アンティークに囲まれて～  
 3月／イギリス田園生活への誘い  
 ～緑の暮らしにいやされて～  
 ①13:15～②15:15～  
 (土・日・祝は11:00～も上映)

## 平成15年度 新収蔵の博物館資料

常磐線開業88周年記念入場券ほか	3件	小畑富男氏寄贈
天保通宝ほか	88点	湯浅昭三氏寄贈
寛永12年伊奈忠治書状ほか	2点	多田利子氏寄贈
大正6年「松戸駅発車時刻表」	1点	購入
北斎「富嶽三十六景 常州牛堀」(復刻版)	1点	購入
周延「鶴御成」(錦絵)	1点	購入

北斎「東海道五十三次 草津」(錦絵)	1点	購入
広重「人物東海道 見附」(錦絵)	1点	購入
三代広重「下総国醬油製造之図」(錦絵)	1点	購入
志賀理斎著『理斎隨筆』(版本・六冊)	1組	購入
江戸後期「高城下野家記」(写本)	1点	購入
広重「名所江戸百景」(復刻版錦絵)	18点	購入

\*ご寄贈いただいた方々にお礼申し上げます。

## 利用案内

●開館時間 9:30～17:00(入館は16:30まで)  
 ●休館日 毎週月曜日(祝日にあたる時は翌日)、館内整理日(毎月第4金曜日)、  
 年末年始(12月28日～1月4日)

●常設展 観覧料

一般	高校・大学生	小・中学生
300円(240円)	150円(100円)	100円(60円)

\*( )内は20名以上の団体料金。企画展・特別展は別料金となります。  
 \*土曜日は小・中学生の観覧料無料。\*市内在住で70歳以上の方は観覧料無料。

●交通案内 新京成線八柱駅・JR武蔵野線 新八柱駅下車 徒歩15分  
 又は、新京成バス 小金原団地行「公園中央口」下車  
 ※来館者専用の駐車場はありません。21世紀の森と広場の有料駐車場をご利用下さい。

ホームページもご利用ください! [www2.city.matsudo.chiba.jp/m\\_muse](http://www2.city.matsudo.chiba.jp/m_muse)

